




人物の気持ちを考えながら読もう

「サーカスのライオン」 川村 たかし

五の場面のじんぎの気持ちを考えよう。

場面	小見出し	() の心じよう曲線	
一	年取った じんぎ	楽しい・元気がある やる気がある。うれし	↑ さびしい元気がな い やる気がないらしい
二	男の子と 出逢った じんぎ		
三			
四			
五			

↑
広用紙の下には、既習場面の大事な一文の短冊が貼られています。ここでは、スペースの都合で省略しています。

この場面では、じんぎは登場しませんが、叙述からじんぎの存在を感じることができます。心情曲線上での位置づけは児童によって異なると思いますが、根拠となる一文やその理由が叙述に即していれば認めます。

けれども、ライオンの曲芸はさびしかった。
おじさんはひとり、チャツとむちをならした。
五つの輪はめらめらともえていた。
だが、くぐりぬけるライオンのすがたはなかった。
お客はいつしようけんめい手をたたいた。

理由

- もし、じんぎが生きていたら、この日のサーカスで火の輪くぐりをがんばっていたと思うから。
- おじさんもお客さんもおじさんのおじさんのおじさんとおじさんが「火の輪を五つにくぐりぬけてやるう。」と言った通りに、火の輪を一の場面よりふやしているから。
- ライオンのすがたはなくても、みんなじんぎのことはわすれないと思ったから。

おじさんやお客さんの行動に、じんぎへの想いが表れている。

【7 / 8 時間目 指導略案】 ワークシート⑦

活動のねらい
サーカスや周囲の人の様子から、叙述に基づいてじんぎの気持ちを想像することができるようにする。

- 1 前時を振り返り、本時のめあてを確認する。
○ じんぎが少年のために命を失った四の場面の様子を振り返り、本時のめあてを確認する。
- 2 学習場面を音読する。
○ じんぎの顔を心情曲線に貼ることと、そこに貼る根拠となったじんぎの気持ちが表れている一文を付せんに書き抜くことを伝え、全員に五の場面を音読させる。
- 3 じんぎの気持ちについて、自分の考えをもつ。
【発問】五の場面のじんぎの気持ちはどう変わったでしょう。
① 心情曲線にじんぎの顔を置く。
② じんぎの顔の位置を決めた根拠となる大事な一文を付せんに書く。
③ 付せんにワークシートに移動させ、その一文を選んだ理由を書く。
- 4 じんぎの気持ちについて、話し合う。① ペアで ② 全体で
○ じんぎの気持ちの変化が分かるように、児童の発言を板書で整理していく。
○ 理由の中にじんぎの気持ちを想像した言葉を用いている児童は賞賛する。
○ 児童の発言を基に、みんながじんぎの死を惜しみ、勇敢なライオンとしてたたえていることに気付かせ、じんぎの気持ちを想像させるようにする。
- 5 五の場面のじんぎの気持ちを想像しながら、じんぎの顔の位置を決めて貼り付ける。
○ 話し合い後、大事な一文や選んだ理由が、変わった児童は書き加えることを告げる。
- 6 【評価】 叙述を基に、じんぎの気持ちを想像することができている。(イ1)
本時の学習をまとめ、次時の学習内容を知る。
○ ワークシートで自己評価をする。
○ 次時は、これまでの学習を生かして「サーカスのライオン」の帯を作ること知らせる。